



 **つながろう 体験しよう！**

**尼崎 森・運河・工場で…**

尼崎 21 世紀の森構想エリアの環境学習推進ビジョン



令和 7 年 3 月

尼崎 21 世紀の森づくり協議会

## 【表紙について】



＜尼崎 21 世紀の森構想エリアのフィールド＞

- ① 森の様子（尼崎の森中央緑地）
- ② 運河の様子
- ③ 工場の様子

＜環境学習＞

- ④ 森（尼崎の森中央緑地）での環境学習の様子
- ⑤ 運河（水質浄化施設）での環境学習の様子  
（出典）運河〇〇クラブ HP
- ⑥ 企業による資材を活用した環境学習の様子

＜繋がる場＞

- ⑦ 森の会議の様子
- ⑧ 企業版森の会議の様子

## 【タイトルについて】

つなごろう 体験しよう！  
尼崎 森・運河・工場で…

尼崎 21 世紀の森構想エリアの環境学習推進ビジョン

タイトルでは、市民団体、企業、学校、行政といった多様な主体や、環境学習の題材となる森や水辺にいる生きもの、間伐材、工場に出る資材や廃材などの資源が繋がることにより生まれた環境学習を、森や運河、工場など多様な環境で体験できる地域であることを表現しています。

# 尼崎 21 世紀の森構想エリアの環境学習 推進ビジョン

## 目 次

1. はじめに .....	1
本ビジョンの主旨 .....	1
本ビジョンの活用について .....	1
2. 検討経緯 .....	2
2-1. 検討手順 .....	2
2-2. 関連する取組 .....	3
3. 尼崎 21 世紀の森構想エリアの環境学習のあり方 .....	4
3-1. 環境学習フィールドとしての森構想エリアの特徴 .....	4
3-2. 環境学習の現状と課題 .....	5
3-3. 森構想エリアの特徴を活かした環境学習の推進ビジョン .....	17
4. 今後の展開 .....	25
森構想エリアの環境学習にご興味のある方へ .....	26

# 1. はじめに

## 本ビジョンの主旨

尼崎臨海地域では、魅力と活力あるまちへの再生を目指して平成14年3月に「尼崎21世紀の森構想」を策定し、「森と水と人が共生する環境創造のまち」をテーマにまちづくりを進めています。この森構想の理念の実現に向けた取組の方向性を示す「尼崎21世紀の森づくり行動計画（令和5年3月改訂）」にもとづいて、森、運河・海、工場・事業所といった多様な環境において、あらゆる主体による取組みが展開されています。

これらの取組みのひとつとして、環境学習にかかわる活動も活発に行われており、森、運河・海、工場・事業所といった尼崎臨海地域ならではの多様なフィールドを活用して、市民団体、企業、学校、行政といった主体がそれぞれのもつ技術や知識、専門性をいかしながら多様な環境学習を展開しています。このように、尼崎臨海地域は、環境学習にかかわるきっかけとなる体験の場や機会が多様かつたくさんあることが魅力のひとつとなっています。

このような状況をふまえ、森構想エリアを環境学習が集中する先進的な地域としてPRすることで森構想エリアの魅力を広く周知し、森構想エリアへより多くの人々に訪れてもらうことを目指して、森構想エリア内で環境学習に取り組む各主体間で環境学習の今後のあり方を共有し、多様な主体の協働による特色ある環境学習をさらに発展させていくため、森構想エリアの環境学習の推進ビジョンとしてとりまとめました。



写真1 森構想エリアで実施されている環境学習

## 本ビジョンの活用について

本ビジョンは、推進ビジョンを示すことで、森構想エリアにおいて環境学習に取り組む各主体間で目指す姿を共有するためのツールとして活用します。

また、森構想エリア内外の県内各地に向けて、森構想エリアが環境学習が集中する魅力的な地域であることをPRするとともに、環境学習フィールドとしての活用や他の主体との連携を望む方々、参加者として訪れたいと考えている市民・団体・企業・学校等に向けたガイドブックとしても活用されることを想定して作成しています。

## 2. 検討経緯

本検討は令和5年度から2か年度にわたり進めてきました。その間、環境学習の推進にかかわる実践的な取組みも進めてきました。ここでは、その検討手順および関連する取組みについて示します。

### 2-1. 検討手順

本検討は、まず、令和5年度に森構想エリアの環境学習の現状を把握するため、兵庫県や尼崎市の関連計画や既存資料等をもとに環境学習が実施されている場所、環境学習の内容、実施主体等について基礎調査を実施しました。次に、基礎調査を通じて把握した、森構想エリア内において環境学習を提供している団体や企業を対象としたアンケート調査や、兵庫県および尼崎市で環境学習を担当する行政担当部局等を対象としたヒアリング調査を実施し、環境学習の実施状況や環境学習に取り組む動機、取組の継続にあたっての課題等について把握しました。

令和6年度は、環境学習の受け手側のニーズを把握するため、森構想エリア内外で環境学習を実践している団体等へのヒアリング調査や、環境学習にかかわる主体間の情報共有・発信の場として開催した環境学習フォーラム参加者に対してアンケート調査等を実施しました。

以上の調査を通じて、森構想エリアにおいて環境学習を推進していくための課題を整理し、推進ビジョンを取りまとめました。

なお、本検討にあたっては、尼崎21世紀の森づくり協議会において、検討の各段階で議論し、その結果を反映させながら検討を進めました。

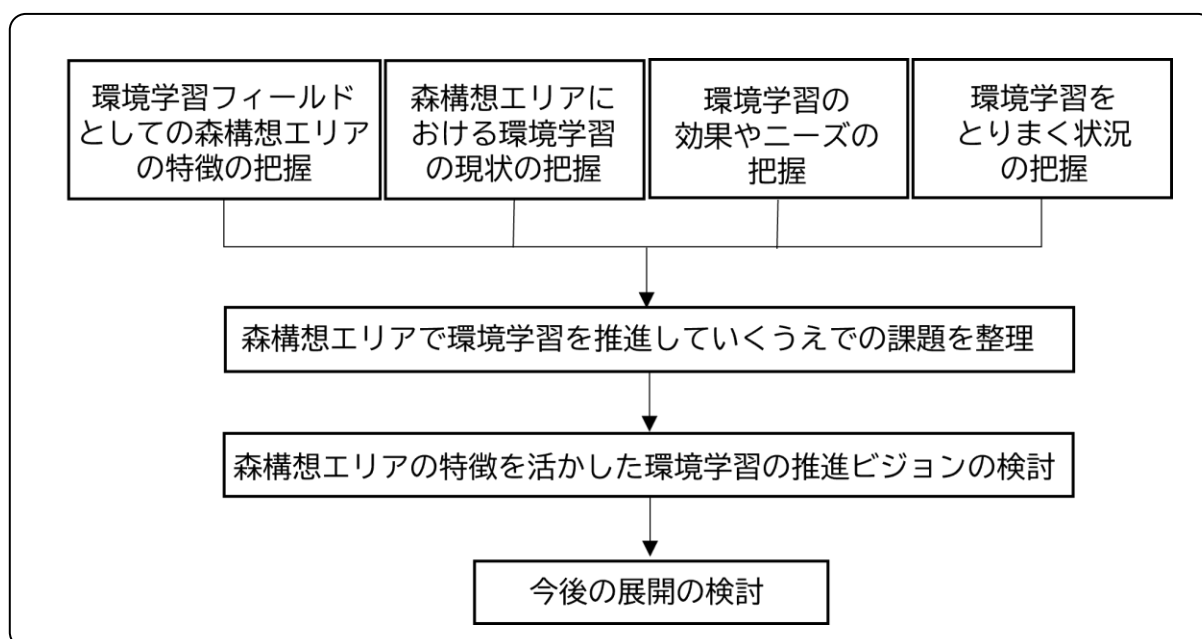


図1 検討フロー

## 2-2. 関連する取組

本ビジョンの検討と並行して、森構想エリア内で環境学習を実践している主体間での情報交換や交流の機会づくり及び団体・企業等の出展による森構想エリア内外への PR のため、令和6年8月9日に「環境学習フォーラム」を開催しました。環境学習フォーラムでは、参加者や出展者を対象に環境学習に関するニーズ等についてアンケートを実施するなど、その結果を本ビジョンに反映させました。

また、森構想エリアの魅力発信について、企業・市民団体・行政がともに考え、繋がる場として令和6年度に立ち上げた「企業版森の会議」において、森構想の推進につながる環境学習について考えることをテーマとした議論や、環境学習フォーラムにおける環境学習プログラムの実践を通じて、森構想エリアの環境学習の推進に向けた今後の課題やアイデアを抽出し、本ビジョンに反映させました。

その他にも、森構想エリア内で環境学習を提供する団体・企業等への「尼崎 21 世紀の森 SDGs 賞」の贈呈や、運河イベントでの環境学習に関する出展など、環境学習に関する機運の醸成につながる PR も並行して進め、気運の醸成と本ビジョンの充実を図りながら進めて来ました。

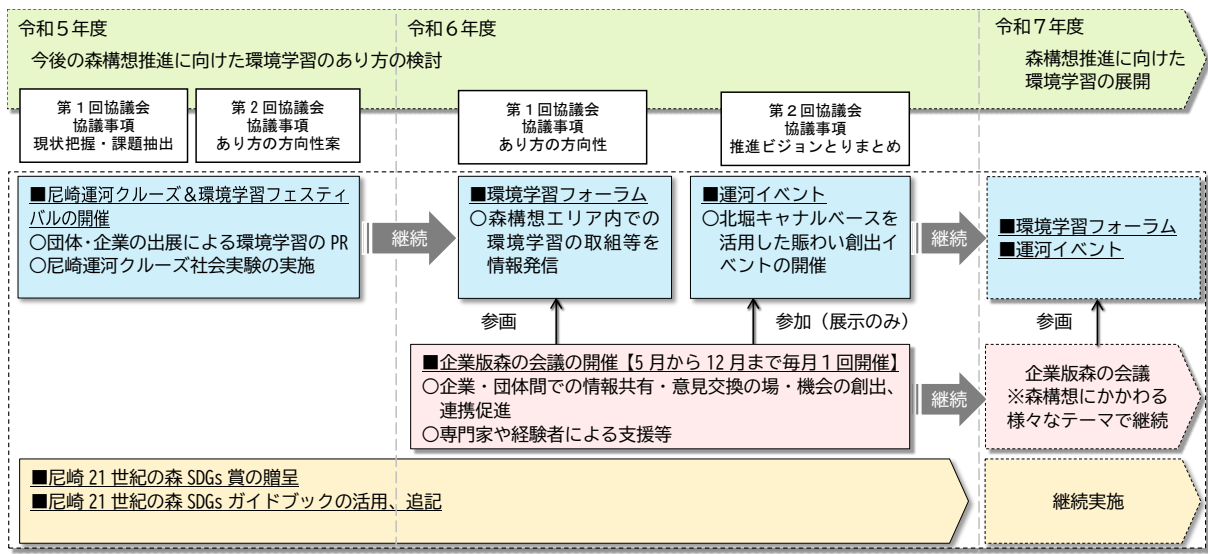


図2 関連事業等との関係

### 3. 尼崎 21 世紀の森構想エリアの環境学習のあり方

森構想エリアの環境学習の現状やニーズを把握し、特徴をふまえたうえで、環境学習の推進にあたっての課題を整理しました。特徴と課題をふまえ、森構想エリアの環境学習の推進イメージを示すとともに、具体的な取組事例を示します。

#### 3-1. 環境学習フィールドとしての森構想エリアの特徴

森構想エリアは、森、運河・海、工場・事業所といった多様な環境を有しています。また、多様な環境の中で、市民団体や企業の社会貢献活動、学校の教育活動、大学の研究活動など多様な主体による様々な活動が行われています。このように、環境学習の題材となる資源や人材が豊富であることが、環境学習フィールドとしての特徴といえます。



図3 環境学習フィールドとしての森構想エリアの特徴

## 3-2. 環境学習の現状と課題

既往文献などをもとにした基礎調査、アンケートやヒアリング結果などから、森構想エリアの環境学習フィールドとしての特性について把握しました。

### (1) 森構想エリアの環境学習の現状

調査の結果、森構想エリアの環境学習の現状について、以下の点が特徴的であることがわかりました。

#### 特徴①環境の多様性／多様な環境をいかした環境学習

森構想エリアには、森、運河・海、工場・事業所といった多様な環境学習フィールドがあることが特徴の一つであり、そのような多様な環境があるからこそ、様々なテーマで環境学習が実践されています。

表1 森構想エリアで実践されている環境学習のテーマの多様性

フィールド	主な施設・場所	実践されている環境学習のテーマ
森	尼崎の森中央緑地 元浜緑地	地域種による森づくり、生物多様性の森づくり、森の材の活用、森の生態系（生き物観察）、昔の暮らし体験 …など
運河・海	北堀チャンネルベース 尼ロック	水質浄化、運河の環境美化、水面活用 海の生態系、栄養循環、防災（津波・高潮） …など
工場・事業所	各企業等の敷地内 イベント会場	環境改善、3R、アップサイクル、資源循環、公害、省エネルギー、地球温暖化、ゴミ削減、CO2削減…など



写真2 環境学習が実践されているフィールドの例

## 特徴②実施主体の多様性／各団体・事業者等の専門分野をいかした環境学習

市民団体、企業、学校、行政といった多様な主体が、それぞれの目的に沿って環境学習を実践されています。各主体の得意分野、専門性をいかしながら、独自のプログラムを提供されており、それぞれに活動目的を有する市民団体や様々な業種の企業が集まる森構想エリア内だからこそ、多様なプログラムが生まれていることが、特徴のひとつとなっています。

表2 環境学習にかかわる主体の多様性

主体	専門性をいかした独自のプログラム例
市民団体	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森づくり（アマフォレストの会）</li> <li>・運河の水辺環境の活用（運河〇〇クラブ）</li> <li>・運河でのガイドウォーク（チャンネルガイドの会）</li> </ul>
企業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・廃油キャンドルづくり（廃食油・食品リサイクル業）</li> <li>・ガラスびんを使った工作体験（ガラス製造業）</li> <li>・製品が日常生活のどこで使われているのかを知るカードゲーム（製造業）</li> </ul>
学校	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各校の学習カリキュラムにおける環境学習</li> <li>・運河の環境再生（徳島大学）</li> </ul>
行政	<ul style="list-style-type: none"> <li>・植樹、間伐などの森づくり活動体験（尼崎の森中央緑地）</li> <li>・尼ロック防災フェスティバル（兵庫県）</li> <li>・あまがさき環境教育プログラム（尼崎市）</li> </ul>



学校

市民団体

運河〇〇クラブ・徳島大学  
(出典) 運河〇〇クラブ HP



行政

尼崎市  
(出典) 尼崎市 HP



市民団体

アマフォレストの会  
(出典) 尼崎 21 世紀の森ウェブマガジン



企業

廃食油・食品リサイクル業

写真3 環境学習を実践する主体の例

### 特徴③対象・形態の多様性／幅広い年齢層を対象に、様々な形態の環境学習

前述のように環境や主体が多様であるため、受け入れることができる年齢層も多様です。未就学児や小学生といった子供向けの環境学習から、中高生や大学生の課外学習や研究活動、大人向けの生涯学習まで、様々な年齢層を対象とした環境学習が実施されています。

また、野外での実施、企業の自社敷地内のほか、学校などへの出張授業やイベントの開催・出展など、様々な形態で環境学習が実践されており、環境学習にかかわる機会が多様かつたくさんあることが特徴となっています。

表3 年齢層に応じた環境学習プログラム

年齢層	環境学習プログラム例
未就学児向け	自然体験（森のようちえん、エコロコプロジェクトなど）
小学生向け	尼崎の森中央緑地や尼崎運河での環境体験学習（生きものの観察、昔の暮らし体験など）
中高生向け	森づくり活動（植樹、間伐など）、企業によるSDGs学習支援、運河体験学習会
大学生向け	森の自然再生や、運河の水質調査・研究など
成人向け	チャンネルウォーク、視察など

表4 様々な形態での環境学習プログラム

形態	環境学習プログラム例
施設・事業所での受け入れ	工場見学など
出張・出前講座	企業や市民団体、行政による地球温暖化や脱炭素などの授業
イベント開催	森のマルシェや森の植樹会など
イベント出展	環境学習フォーラム、尼崎運河魅力アップ事業など



写真4 様々な年齢層を対象に実施される環境学習

## (2) 環境学習の効果やニーズ

森構想エリアの環境学習を通じて感じられている効果や、森構想エリアの環境学習の展開にかかわるニーズについて、アンケートやヒアリング結果をもとに、環境学習の提供者側および受け手側（参加者側）のそれぞれの視点からニーズを把握しました。

### ① アンケート調査の実施概要

実施目的： 各主体が環境学習を行う目的や課題、ニーズの把握  
対象者： 環境学習フォーラムの参加者を対象に、興味のある環境学習の分野について、年齢層に応じたアンケート調査を実施。  
実施時期： 令和5年7月上旬～令和5年7月下旬  
実施方法： メールによるアンケート票の送付及び回収  
有効回答数： 有効回収数 32 通（企業 21、市民団体 11）（100%）

実施目的： 環境学習の受け手側の興味のある環境学習の分野のニーズの把握  
対象者： 環境学習フォーラムの参加者（子どもを含む）  
実施時期： 令和6年8月9日  
実施方法： ・用紙によるアンケート（環境学習フォーラムの参加者）  
・シール式アンケート（環境学習フォーラムに参加している子ども）  
有効回答数： 有効回収数  
・用紙によるアンケート：28 件  
・シール式アンケート：小学生 14 名、高校生以上 19 名

### ② ヒアリング調査の実施概要

以下3つの視点から、ヒアリング調査を実施しました。

#### ■兵庫県および尼崎市における環境学習の実態の把握

実施目的： 兵庫県内及び尼崎市内の環境学習の現状及び課題、ニーズの把握  
対象者： 兵庫県や尼崎市の環境学習に関わる関係各課（4者）  
実施時期： 令和5年8月～令和5年12月

#### ■企業等と連携した環境学習の展開の可能性の把握

実施目的： 環境学習の提供者側の現状及び課題、ニーズ、環境学習への企業の関わり方の可能性の把握  
対象者： アンケート調査などを基に、環境学習を行っている企業や、今後の環境学習に関わっていききたいと意欲的な企業（11社）  
実施時期： 令和5年12月～令和6年2月

#### ■環境学習の受け手側のニーズの把握

実施目的： 環境学習の受け手側の現状及び課題、ニーズの把握  
対象者： 尼崎市内外の学校とかかわりのある環境学習の実践者など（4者）  
実施時期： 令和6年10月～令和7年1月

## 【環境学習の効果】

### ①受け手側が感じている効果

- ・ヒアリングでは、特に未就学児にとって体験することは、子どもたちの五感を養うことや、友達との関わりなどの社会性を養うことに繋がることがわかりました。  
また、楽しく満足感を得る体験は、子どもたちの自尊心や協調性を高め、環境を良くしようとする行動変容にも繋がり、まちを良くしていきたいという思いの醸成にも繋がることがわかりました。

### ②提供者側が感じている効果

- ・ヒアリングでは、少人数規模での環境学習は、リピーターに繋がりがやすく、より深く地域のことを知り、地域に関わってもらえる可能性が高いことがわかりました。
- ・環境学習のメリットに関するアンケートでは、企業・市民団体どちらも「地域とつながりができた」「企業・団体のイメージ向上につながった」が多く、ヒアリングからも同様の効果を確認でき、環境学習を実施することは、地域とつながり、環境学習の提供者のイメージ向上につながる効果があることがわかりました。

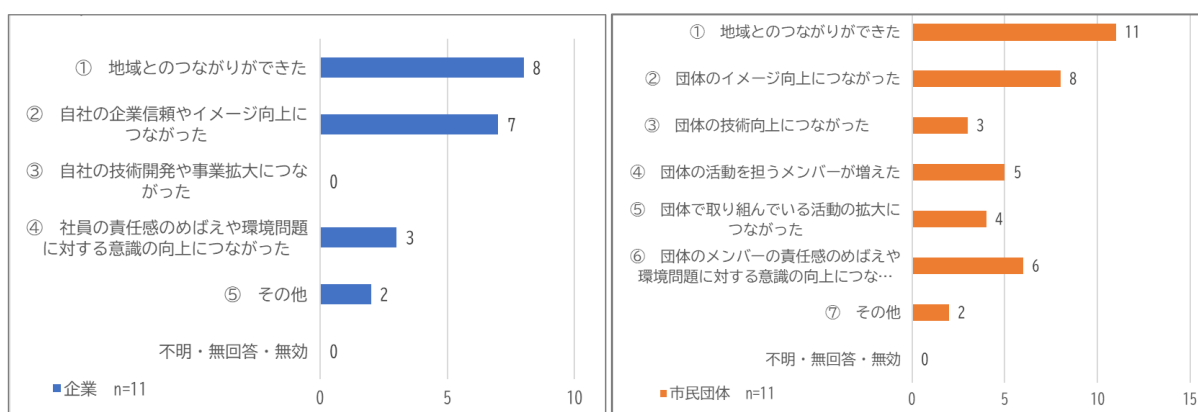


図4 環境学習のメリットに関するアンケート結果  
(左図：企業を対象、右図：市民団体を対象)

## 【提供者側の動機とニーズ】

### ①提供者側の環境学習に取り組む動機

- ・環境学習に取り組む動機に関するアンケートでは、企業・市民団体どちらも「社会的責任や社会貢献のため」が多く、企業では「SDGs 推進の高まりのため」「自社の事業に関心を持ってもらうため」、市民団体では「尼崎臨海地域に愛着を持ってもらうため」が多い結果でした。

ヒアリングからも、同様の動機を確認でき、企業は社会貢献などが求められる世の中の動きに応えるためや、自社の環境面に対する取組みをPRしていきたいという動機があること、市民団体は地域のイメージを向上させていきたいという動機で環境学習を実施していることがわかりました。

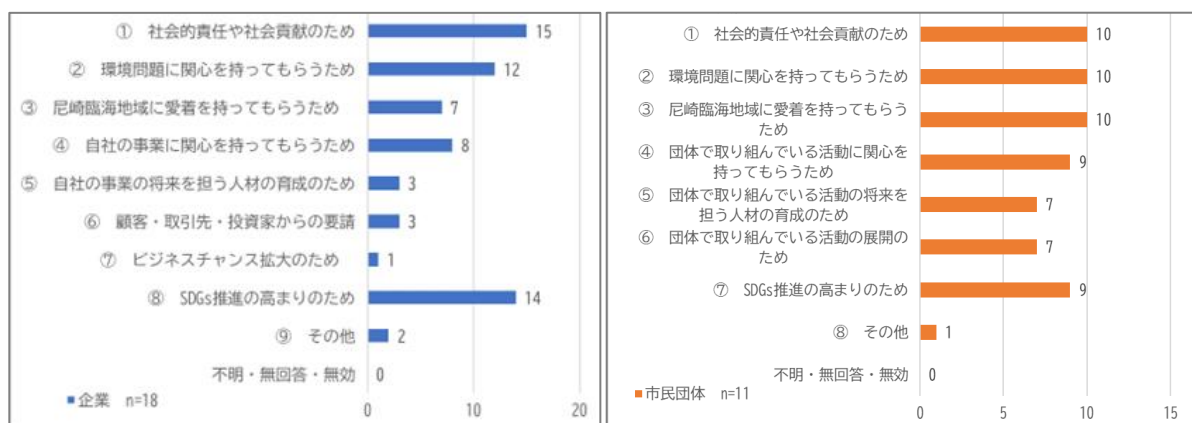


図5 環境学習に取り組む動機に関するアンケート結果

## ②提供者側のニーズと課題

- 環境学習について今後できれば良いと思うことに関するアンケートでは、「他企業や団体と情報交換をしたい」が多く、「専門的な知識を持つ学校や大学と連携したい」などの意見も見られました。企業へのヒアリングでは、「他社との連携を深めたい」「他の分野の方と交流することで、自社の取組みが広がりそう」などの意見があり、他主体との連携に関するニーズがあることがわかりました。
- 環境学習について今後できれば良いと思うことに関するアンケートでは、「学校のニーズを知りたい」という意見が見られました。企業へのヒアリングでは、「自社の環境学習のプログラムに興味のある方とのマッチングの機会があると良い」などの意見があり、環境学習の受け手のニーズに合わせた環境学習を実施していきたいという提供者側のニーズがあることがわかりました。
- 環境学習の課題に関するアンケートでは、「活動をPR・周知する効果的な手段がない」「参加者が十分に集まらない」などの意見が見られました。環境学習について今後できれば良いと思うことに関するアンケートでは、「効果的な宣伝をしていきたい」という意見が見られました。行政へのヒアリングでは、「様々な主体が活動をしているが、あまり知られていないことを課題と感じている」などの意見があり、各取組みを効果的に発信する必要があることがわかりました。
- 現在は環境学習に取り組んでいないが、今後取組みたいかに関するアンケートでは、これから環境学習を実施していきたいと積極的な企業が多くあることがわかりました。また、企業へのヒアリングでは、業種や各社の方針によってできる環境学習が様々であり、環境学習に関わる選択肢が幅広くあることが望まれていることがわかりました。

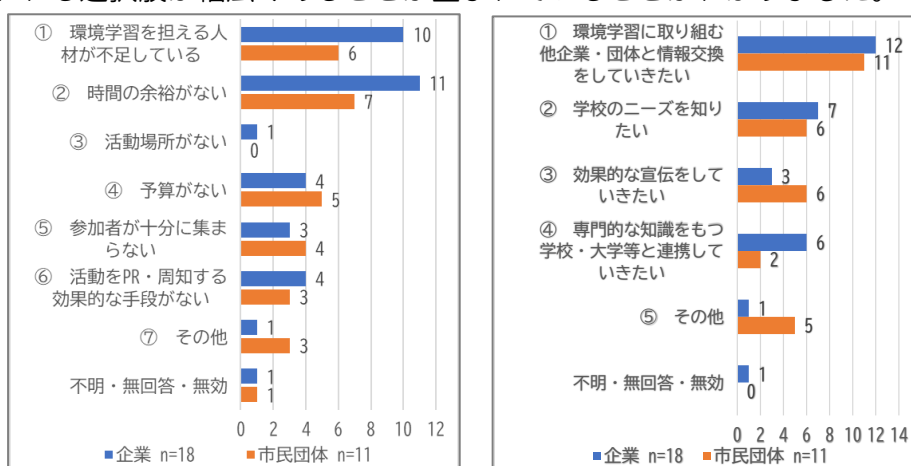


図6 環境学習の課題に関するアンケート結果（左図）  
環境学習について今後できれば良いと思うことに関するアンケート結果（右図）

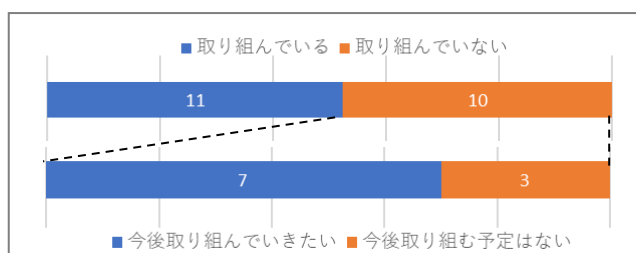


図7 環境学習に取り組んでいるかどうかのアンケート結果（上図）  
環境学習に今後取り組んでいきたいかどうかのアンケート結果（下図）

## 【受け手側（参加者側）のニーズ】

### ①受け手側（参加者側）のニーズ

環境学習フォーラムの参加者（子どもを含む）を対象に実施した興味のある環境学習分野に関するアンケートでは、いずれの分野においても興味を示している人が見られました。特に、生きもの観察などの生物多様性に関する環境学習は、興味を示している人が多く、自然の中での環境学習に関心が高くあることがわかりました。

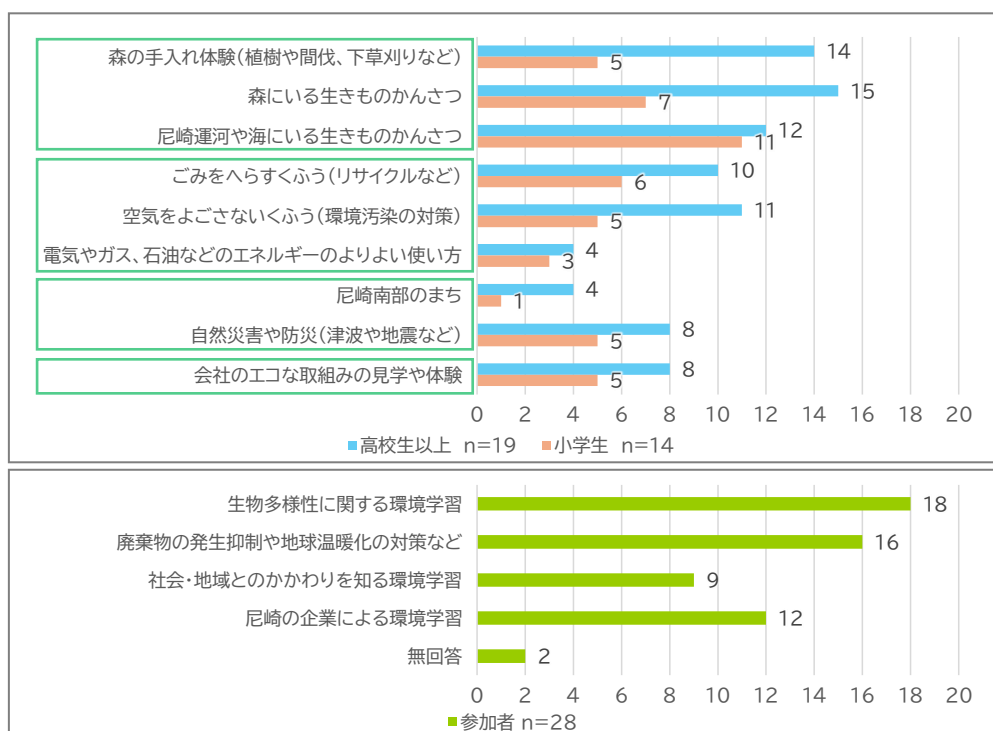


図8 環境学習フォーラムに参加している子どもを対象にしたアンケート（上図）  
環境学習フォーラムの参加者を対象にしたアンケート（下図）

### ②学校のニーズと課題

- ・ヒアリングでは、幼稚園では、子どもたちが五感を使って何かを発見できる体験、小学校では、学習の単元と結びつく内容の環境学習が望まれる傾向にあることがわかりました。
- ・ヒアリングでは、熱心に環境学習に取り組む学校の先生にとっては、地域のどのような場所で、どのような人たちと連携して環境学習を実施できるかを知る機会（交流や情報交換）が望まれていることがわかりました。
- ・ヒアリングでは、幼稚園から中学校は、移動手段がバスであるため、バス代の一部補助があることが望まれることがわかりました。
- ・ヒアリングでは、同日に複数個所で環境学習のプログラムを実施することや、環境学習と遠足など環境学習以外のプログラムを組み合わせた行程が望まれることがわかりました。

### (3) 環境学習をとりまく状況

国や兵庫県、尼崎市などにおける近年の環境学習をとりまく状況について、以下に示します。

#### ①探求的な学習の推進に向けて

文部科学省が作成する小学校から高等学校の学習指導要領においては、総合的な学習（探求）の時間は、探求的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標にしています。このため、自然とのふれあいや様々な発見や体験ができる環境学習は、これからの時代においてますます重要な役割を果たすものと期待されます。

#### ②兵庫県での環境学習の取組み

平成 28 年に兵庫県で策定した「新兵庫県環境教育環境学習基本方針」では、各主体の立場に応じた環境学習・教育への取組のあり方などを示しており、兵庫ならではの特色ある環境学習・教育施策を県、市町一体となって総合的かつ計画的に推進することを運営指針としています。

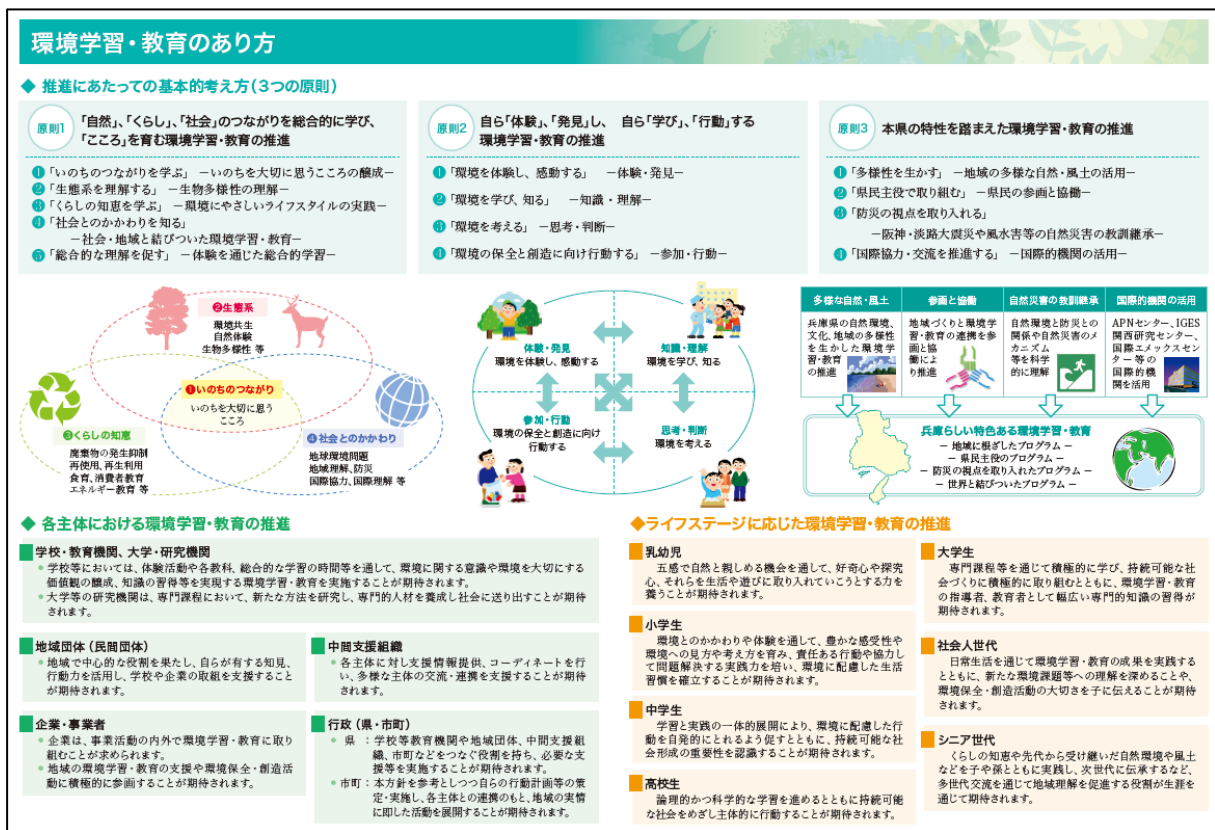


図9 環境学習・教育のあり方(新兵庫県環境教育環境学習基本方針)

### ■ひょうごエコロコプロジェクトの概要

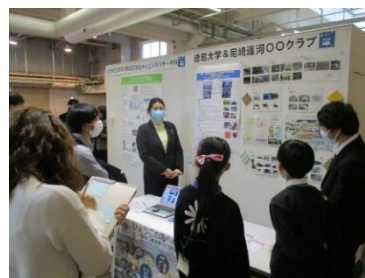
兵庫県の認可を受けた全ての幼稚園・保育所・認定こども園、約 1,500 園を対象として、自分たちで環境体験を継続的に実施できる仕組みを構築することを目的に、四季を通して園児が自然を楽しめる体験や、園の先生向けに自然素材を使った遊びの実践や情報交換などを行っています。



葉を使った自然体験  
(出典) エコロコプロジェクト HP

### ■ひょうごユース eco フォーラムの概要

若者世代による環境活動の活性化を通して、将来社会の担い手を育成するため、世代や分野を超えた環境保全・創造活動の担い手が一堂に会し、口頭発表やポスター発表での取組み紹介や、団体間での交流促進を目的としたグループディスカッションなどを行っています。なお、当フォーラムの企画・運営は高校生・大学生の学生企画委員が行っています。



取組み紹介  
(出典) 兵庫県 HP

### ■ひょうご高校生環境・未来リーダー育成プロジェクトの概要

環境問題を科学的・論理的に捉え、解決策を考え、実践できる資質を身に付けた「次代の兵庫の環境創造を担うリーダー」の育成を目的に、高校生を対象に、講義・ワークショップ等の研修や有識者等との意見交換、課題解決プランの作成・提案を支援するプロジェクトを行っています。



課題解決プランの作成・提案  
(出典) 兵庫県 HP

### ③ 尼崎市での環境学習の取組み

#### ■あまがさき環境教育プログラムの概要

地球温暖化やごみ減量に向け、児童一人ひとりが自分で考え、行動するために、尼崎市の小学校 4～6 年生の授業で活用できる環境教育プログラムを作成・実施しており、公害問題や地球温暖化、ゴミ減量、尼崎運河の自然についてのテーマを扱っています。



授業の様子  
(出典) 尼崎市 HP

#### ■環境学習サポートブックの概要

環境についての講座や勉強会を開催する際に、学習内容や、誰に講師を依頼するかなどについて悩んでいる人に向けて、尼崎市にゆかりのある企業、市民団体、大学等が実施している環境学習プログラム（出前講座、工場見学など）を紹介した冊子を発行しています。



サポートブック表紙  
(出典) 尼崎市 HP

#### ■エコあまフェスタの概要

市民が中心になって企画、運営している「環境」をテーマにしたイベントです。環境のことや市内の自然について楽しく学べる体験ブースや、リユース食器などの環境に配慮した容器を使用した飲食ブースなどがあり、尼崎のエコを楽しく学べるイベントです。



体験ブースの様子  
(出典) あまがさき環境オープンカレッジ HP

#### ■あまがさき環境オープンカレッジの概要

尼崎を愛し環境を思う人が出会い、ともに学び、実践へのきっかけをつくる場であり、NPO 法人あまがさき環境オープンカレッジが事務局を担っています。当法人では、環境学習・活動などに関する情報提供や相談を行うとともに、講座やイベントの実施・実施し、または他の団体等が企画する講座やイベントの実施の支援などを行っています。



活動の様子  
(出典) あまがさき環境オープンカレッジ HP

#### (4) 課題

基礎調査、アンケート、ヒアリングから把握した尼崎 21 世紀の森構想エリア内の環境学習の現状や特徴、ニーズをもとに、尼崎 21 世紀の森構想エリアにおいて環境学習を推進していくうえでの課題について整理します。

##### ①サポートするしくみの充実

企業・市民団体ともに時間的制約や環境学習を担える人材の不足が課題となっていることが分かりました。また、専門的な知識を有する学校や大学等との連携を望む意見がありました。

加えて、乳幼児向けの環境学習の実施にあたっては、幼児教育および環境学習の双方の専門家のサポートが必要であることがわかりました。

以上のことから、環境学習を推進していくためには、企業や市民団体などによる環境学習の実施を専門家や経験者がサポートするしくみづくりが求められています。

##### ②きっかけとなる場・機会の創出

他の企業や市民団体主催のイベントへの出展をきっかけに、環境学習に取り組むようになった企業の事例が多く見られました。また、企業と市民団体ともに、環境学習の実施に向けた意欲はあるがノウハウが無いことから、既に環境学習に取り組んでいる他の企業や市民団体との情報交換の機会が望まれていることがわかりました。

以上のことから、環境学習に取り組む企業や市民団体、専門的知識を持つ大学や研究機関、環境学習の実施へ意欲のある企業や学校園などがつながり、情報交換や連携による取組へ発展するきっかけとなる場や機会が求められています。

##### ③情報の発信・共有

尼崎臨海地域における環境学習の実施状況の特徴として、森、運河・海、工場・事業所など様々なフィールドを活用して多様な分野をテーマに実施されていることがわかりました。また、市民団体、企業、学校、行政といった多様な主体が、それぞれの専門分野をいかした環境学習を実施することで、全体として多様な分野の環境学習が実施されていることがわかりました。このような実施状況と合わせて、市民団体からは効果的な宣伝をしていきたいという意見が多いことから、既に実施されている環境学習の取組に関する情報発信が求められています。

加えて、既存の環境学習に関する取組をまとめて情報発信していく必要があることがわかりました。

以上のことから、尼崎臨海地域において、企業や市民団体など多様な主体により実施されている多様な分野の取組に関する情報を取りまとめ、発信・共有することが求められています。

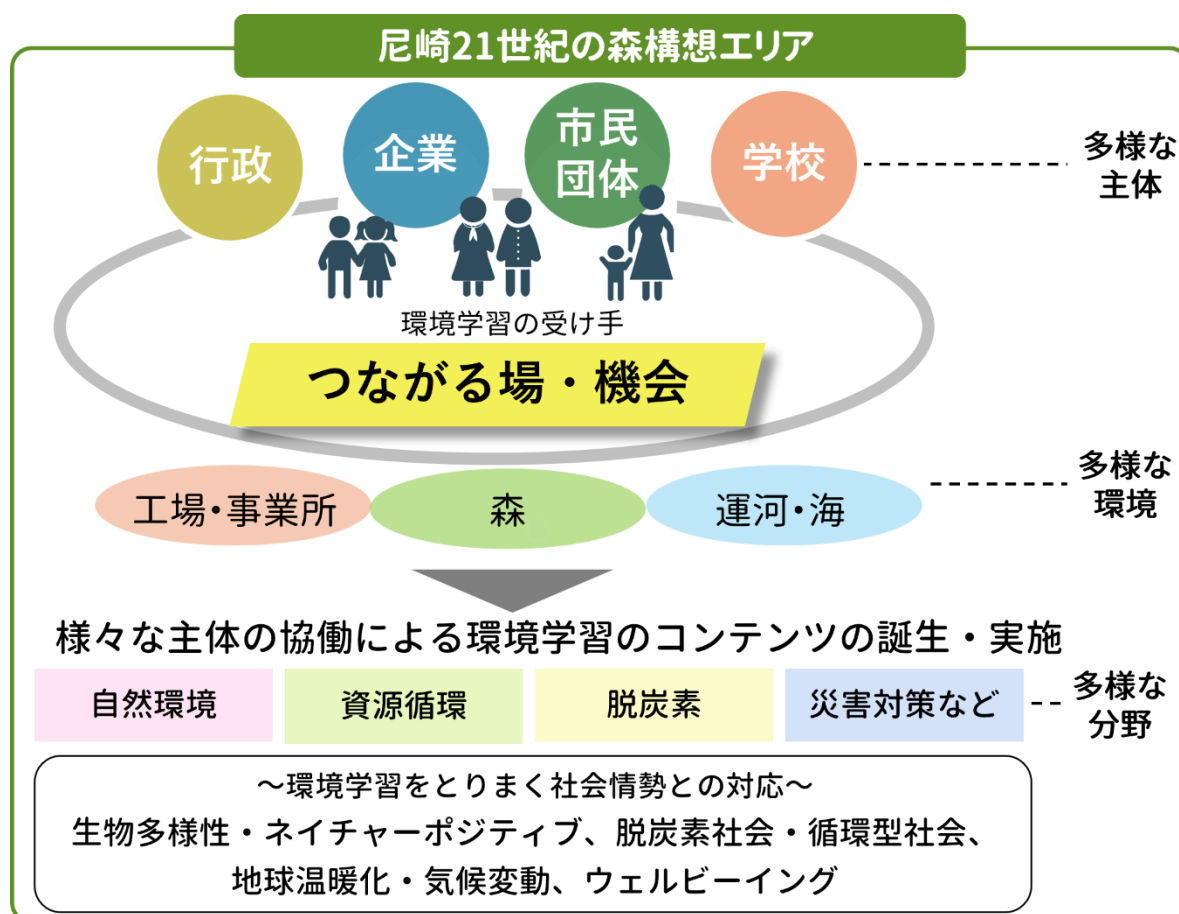
### 3-3. 森構想エリアの特徴を活かした環境学習の推進ビジョン

以上より、森構想エリアの環境学習を推進していくためには、環境学習の受け手側と提供側、また、各主体間の連携の促進が求められることから、「つながる場・機会」づくりが重要と考えました。ここでは、「つながる場・機会」による推進イメージを示すとともに、具体的な推進パターンと想定されるストーリー例を示します。

#### (1) 推進ビジョン

環境学習の受け手側および提供側となる多様な主体が「つながる場・機会」を設けることで、主体間の情報発信・共有が行われ、連携が生まれ深まります。

この「つながる場・機会」がきっかけとなり、多様な主体の協働によるアイデアが生まれ、新たな環境学習コンテンツが実施され、尼崎21世紀の森構想エリアの特徴を活かした環境学習がさらに充実していくことを通じて、森構想エリアを「魅力と活力のある地域」としていくことを目指します。



**尼崎21世紀の森構想エリアの特徴を活かした  
環境学習を通して、魅力と活力のある地域を目指す。**

図10 推進イメージ

## (2) 推進パターン

推進イメージに基づき、「つながる場・機会」による環境学習の推進パターンを以下の3つに整理しました。次頁以降では、各推進パターンの詳細を示します。なお、ここに示す3つの推進パターンは現時点で想定されるものであり、今後も様々な形の「つながる場・機会」ができることも想定しながら、取組を推進していきます。

★推進パターン① 環境学習の提供者と受け手のつながりにより生まれる環境学習

★推進パターン② 環境学習の提供者が複数集まることにより生まれる環境学習

★推進パターン③ 環境学習の提供者や受け手がリレー方式で実施する環境学習

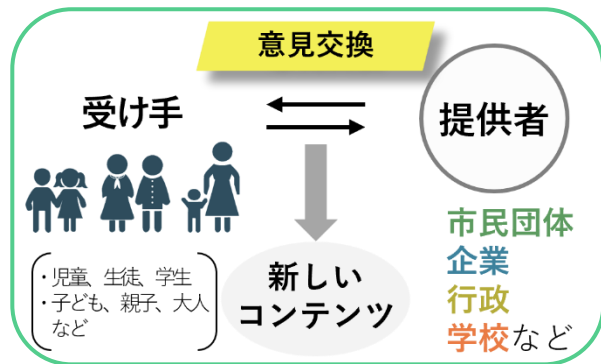
### ★推進パターン①

環境学習の提供者と受け手のつながりにより生まれる環境学習

□つながる前



■つながる場・機会



### ★推進パターン②

環境学習の提供者が複数集まることにより生まれる環境学習

□つながる前

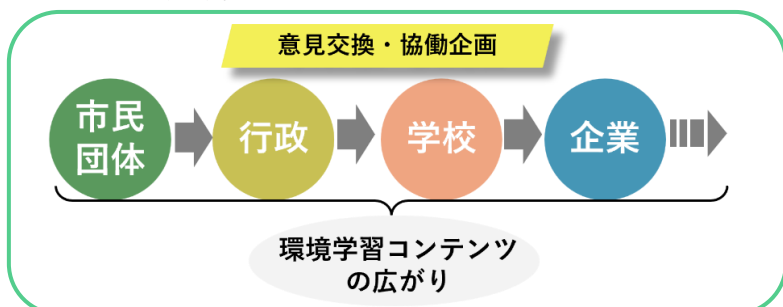


■つながる場・機会



★推進パターン③ 環境学習の提供者や受け手がリレー方式で実施する環境学習

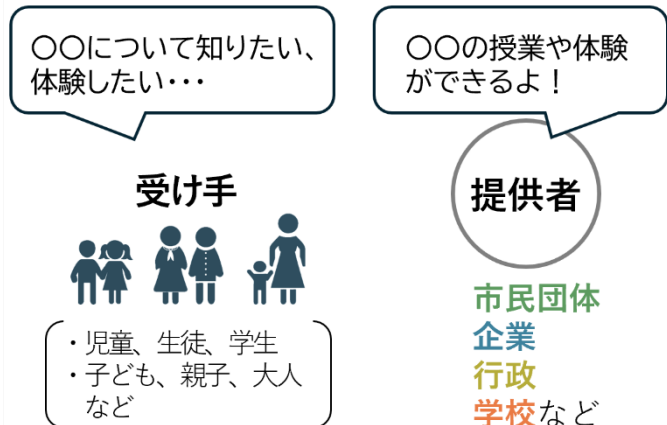
■つながる場・機会



## ★推進パターン① 環境学習の提供者と受け手のつながりにより生まれる環境学習

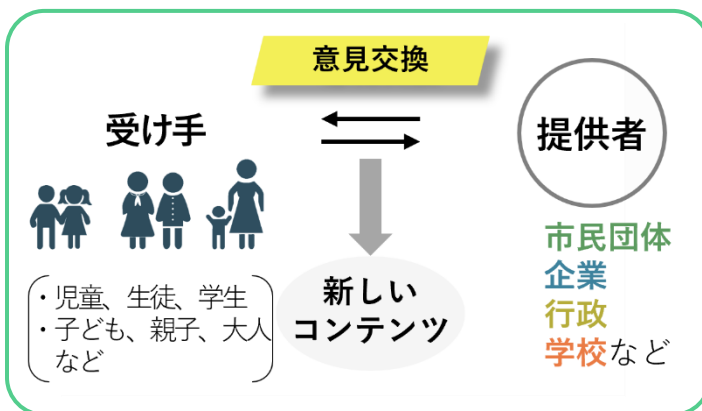
環境学習を提供している主体と環境学習を受けたい主体をつなげる場・機会をつくることで、双方向の意見交換から新たな環境学習コンテンツが生まれ、実践することが期待できます。

### □つながる前



あるテーマについて環境学習を受けたいと考えている学校などの受け手と、そのテーマについて環境学習ができるノウハウや技術を持つ市民団体、企業、行政等の提供者がつながっていない状態。

### ■つながる場・機会



「つながる場・機会」で情報交換を行う機会ができたことで、提供者側からは環境学習コンテンツが提供され、また、相互の意見交換を通じて新たな環境学習コンテンツが生まれ、実践される。

～ 推進パターン① 具体的なストーリー事例 ～

ある企業が、探求学習で尼崎臨海地域について学ぶ中学生に、環境に配慮した取組みを紹介する。紹介の後に、どのようなことをすればより良い取組みができるかを中学生と企業の社員で意見交換を実施。意見交換を通して、中学生は地域のことを考えるきっかけになり、企業にとっては将来地域を担う世代と関わる機会になる。この繋がりで生まれたアイデアにより、他の環境学習の受け手にも企業の取組みを発信できるようになる。

ある企業が、尼崎臨海地域のことを調べているある中学校の探求学習の授業で、環境に配慮した製品づくりについて紹介。



授業の様子

(出典) 神鋼鋼線工業㈱HPより

脱炭素に繋がる製品

リサイクルができる製品

減災・防災に繋がる製品

工場・事業所

企業

中学生と企業の社員で、何をすればもっと良い取組みができるかについて意見交換し、企業のことを知ってもらうためのアイデアが誕生。

取組みのお話を聞くと、自分たちの生活に身近なものを作っているのを知って、驚いた。



中学生

製品のカードゲームを作ったら、製品のことを楽しんで知ってもらえるのでは？



意見交換の様子

(出典) 神鋼鋼線工業㈱HPより

企業

何かの製品の一部分を作っているの、一般の人に、会社のことを知ってもらいたくないことが課題・・・

意見交換をして生まれた環境学習コンテンツ「カードゲーム」をイベント等で実施することで、中学生だけでなく、他の年齢層にも企業の取組みを伝えることができるように。



カードゲーム



カードゲームに挑戦している様子

生活に身近にある製品もここで作っているんだ！



親子

## 推進パターン② 環境学習の提供者が複数集まることにより生まれる環境学習

それぞれに異なる専門分野や技術を有し、それぞれのテーマで環境学習や環境に関する取組みを実施している市民団体、企業、行政、学校といった様々な主体が集まり、意見交換協働企画を通じて新しい環境学習コンテンツが生まれ、実践されることが期待できます。

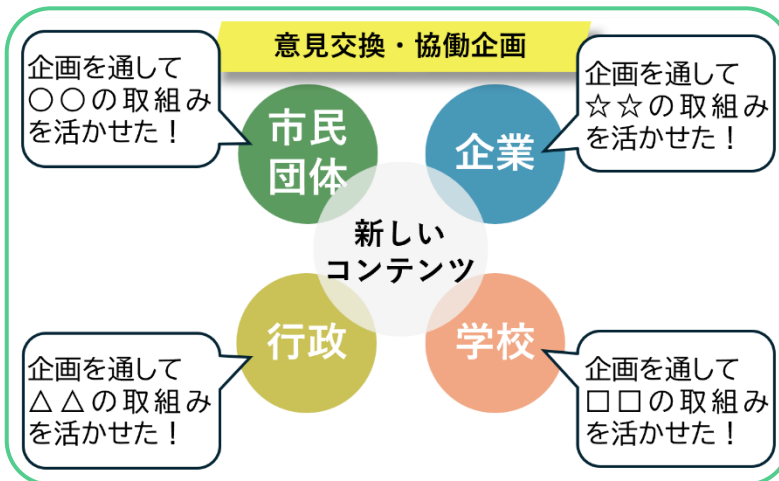
### □つながる前



各主体において専門分野をいかした取組が行われているものの、それらがつながっておらず、個々で実施されている状況。自社の技術をいかした環境学習の展開を望む企業等もいる。



### ■つながる場・機会



イベント等をきっかけに各主体が一堂に会し、それぞれの取組について意見交換。協働企画により新たな環境学習コンテンツが生まれ、イベント等で実施される。

～ 推進パターン② 具体的なストーリー事例 ～

複数の企業が、企業版森の会議など複数の主体が集まる機会において、各社の環境に関する取組みなどを共有。1社では難しいが、複数企業が協働することで、それぞれの思いが含まれた環境学習の企画が生まれる。この企画をイベント等で実施することで、地域に各企業の環境に関する取組みを発信することができるようになる。また、企業同士の協働により、今後も新たな企画を生み出していけるような関係性が構築される。

企業版森の会議などつながる場・機会で、企業それぞれの取組みや思いを知る。



1社では難しいが、複数企業がコラボすれば、それぞれの思いを実現できることに気づき、各社が資材や廃材を持ち寄った今までにない新しい企画が生まれる！



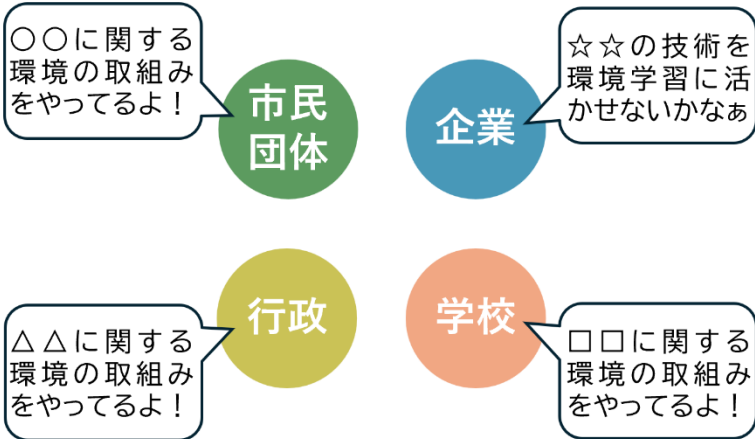
イベント等で企画を実施することで、様々な年代の子どもたちに各社の取組みを知ってもらうことに繋がる。



### 推進パターン③ 環境学習の提供者や受け手がリレー方式で実施する環境学習

推進パターン②と同様に、市民団体、企業、行政、学校といった様々な主体が集まり、意見交換の中で各活動をつなぎ合わせるアイデアが生まれ、各主体の取組みの内容を変えることなく環境学習コンテンツが広がり、実践されることが期待できます。

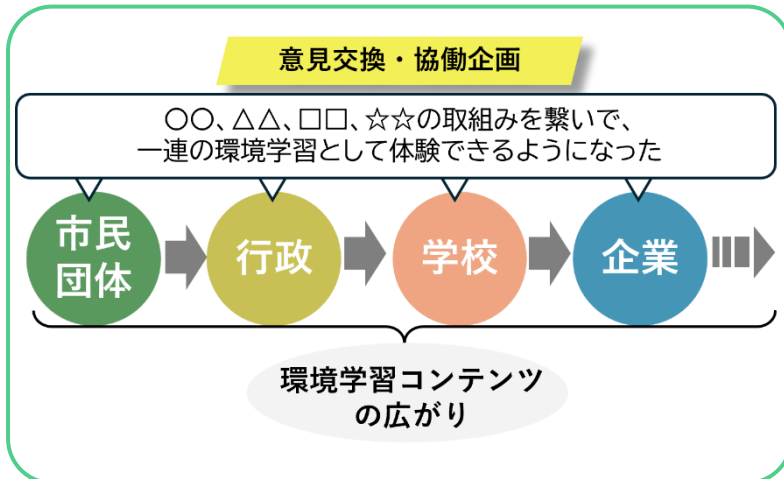
#### □つながる前



各主体において、専門分野をいかした取組が行われているものの、それらがつながっておらず、個々で実施されている状況。自社の技術をいかした環境学習の展開を望む企業等もある。



#### ■つながる場・機会



イベント等をきっかけに各主体が一堂に会し、それぞれの取組について意見交換。協働企画により各社の取組みをつなぎ、循環する一連の環境学習として体験できるコンテンツとして、環境学習の幅が広がる。

～ 推進パターン③ 具体的なストーリー事例 ～

環境学習の提供者や受け手が一堂に会する場で、それぞれの取組みや課題などを共有する。各自の活動を繋ぎ合わせることで、更なる活動の循環が生まれることに気づき、協働することになる。この協働の連鎖が続くことで、人や資源、場所など地域にある様々なものが繋がり、各取組みの価値が向上する。また同時に、学べる環境の分野も広がっていく。

環境学習フォーラムなど様々な主体がつながる場・機会で各取組みを紹介し合う。



尼崎臨海地域にこんな活動をしている人たちがいたんだ!

各主体が取組みを紹介し合う様子

それぞれの取組みを繋ぎ合わせれることに気付く。



魚釣りの様子  
(出典) 尼崎市HPより



魚のアラの肥料で育った菜の花  
(出典) 尼崎市HPより



菜の花の油で釣った魚を調理  
(出典) 尼崎市HPより



運河・海

尼崎の海で釣った魚のアラで肥料づくり

魚のアラの肥料を使い、北堀キャナルベースで菜の花を栽培。菜の花の油で、尼崎の海で釣った魚を調理する取組みなどを行っている。



廃油の回収やリサイクルの事業者

廃油回収の様子  
(出典) 浜田化学HPより

工場・事業所

飲食店やイベントなどで出る廃食用油を回収し、バイオディーゼル燃料にリサイクルしている。



イベント出展の様子  
(出典) 浜田化学HPより

森  
尼崎の森中央緑地で開催しているイベント「ロハスフェスタ」で、バイオディーゼル燃料を発電してイベントを実施。

公園の運営・管理者

## 4. 今後の展開

推進イメージで示した「尼崎 21 世紀の森構想エリアの特徴を活かした環境学習を通して、魅力と活力のある地域を目指す」にあたり、今後の展開について以下に示します。

### ■各主体がつながる場・機会の創出

環境学習フォーラムの実施や森の会議、企業版森の会議を活用するなど各主体がつながる場・機会を創出することで、多様な主体の協働による様々な環境学習コンテンツが生まれ、それらを体験できる魅力的なエリアとなるとともに、環境学習の実践を通じて市民団体、学校、行政、企業など様々な主体が活躍する活力ある地域となることを目指します。

### ■森構想エリア内外へ、森構想エリアの魅力として PR

森構想エリアの特徴をいかながら多様な主体の協働による環境学習が行われる先進的な地域であることを広く森構想エリア内外へ向けて PR することで、森構想エリアの魅力づくりへつなげます。

### ■環境学習に参加したい人向けの取組みやすいしくみづくり

森構想エリアの特徴を活かした環境学習に参加したい人が相談できるしくみや、環境学習フォーラムなど提供側の各主体と交流できる機会をつくることで、環境学習を通じて森構想エリアへ訪れる人が増え、活力ある地域となることを目指します。

### ■観光、視察、見学の受け入れ

森構想エリアの特徴をいかながら多様な主体の協働による環境学習が行われる先進的な地域として視察や見学を受け入れることで、森構想エリアの魅力を環境学習を通じて PR するとともに、森構想エリアへ訪れる人が増え、活力ある地域となることを目指します。

また、森構想エリアの自然や歴史、地域の魅力を体験できる環境学習体験を観光の視点から展開することで、環境学習を通じて森構想エリアに訪れる人が増え、活力ある地域となることを目指します。

## 森構想エリアの環境学習にご興味のある方へ

ここでは、森構想エリアの環境学習に参加してみたい方や、森構想エリアで環境にかかわる活動を実施している市民団体や企業、行政等と連携した取組について相談したい方などに向けた情報をまとめました。

### (1) 森構想エリアの環境学習の取組に関する情報

森構想エリアの環境学習を展開していくにあたり、本ビジョン作成にかかわる各種調査を通じて把握できた、森構想エリアにおいて環境学習を含む環境分野に関する社会活動等を実施している企業及び市民団体、行政機関の取組事例について、次頁以降で紹介いたします。なお、現時点では環境学習には取り組んでいなくても、今後、新たに環境学習の取組みへと展開されることを期待して、環境分野に関連する社会活動等を実施している企業・市民団体についても示しています。

■企業の取組み一覧表

自然環境・・・生物多様性など 資源循環・・・ごみ、3Rなど 脱炭素・・・エネルギー、気候変動など その他・・・災害対策、地域の発信

	企業名	分野				具体的な取組み	お問合せ先
		自然環境	資源循環	脱炭素	その他		
1	A社（金融・保険業）	●				・尼崎の森中央緑地の森づくり	<p>表はイメージです。                      今後、環境学習に興味を持たれた方の参考となるよう、                      各主体の名前や取組みが把握できる表とすることを                      想定しています。</p>
2	B社（サービス業）				●	・SDGsの発信	
3	C社（工業団地）	●		●		・養蜂	
4	D社（製造業）	●		●		・尼崎の森中央緑地の森づくり ・CO2削減を目指した釘の利用促進	
5	E社（サービス業）	●	●			・魚のアラを使用した肥料づくり	
6	F社（建設業）	●	●			・苗木の里親 ・清掃活動	
7	G社（建設業）			●		・CO2削減に配慮した印刷	
8	H社（建設業）	●			●	・苗木の里親 ・環境に配慮した土木建築工事 ・災害時を見据えた工事現場	
9	I社（製造業）			●	●	・CO2削減に配慮した防災や減災に関わる製品づくり	
10	J社（サービス業）		●			・蛍光灯などのリサイクル	
11	K社（不動産業）		●			・清掃活動	
12	L社（複合サービス事業）	●	●			・尼崎の森中央緑地の森づくり	
13	M社（製造業）	●		●		・CO2削減に配慮した鉄づくり ・苗木の里親	
14	N社（製造業）		●			・ガラスのリサイクル ・苗木の里親	
15	O社（サービス業）		●			・廃油のリサイクル	
16	P社（運輸・通信業）			●		・脱炭素に配慮した施設整備	
17	Q社（学術研究、専門・技術サービス業）			●		・太陽光発電の設置	
18	R社（製造業）	●				・苗木の里親	
19	S社（製造業）		●	●		・廃棄鶏卵卵殻を活用したCO2削減に繋がる製品づくり	
20	T社（製造業）		●			・ガラスのリサイクル ・清掃活動	
21	U社（不動産業）	●	●	●		・敷地内緑化 ・太陽光発電を活用した施設の運営 ・清掃活動など	

■市民団体等の取組み一覧表

	団体名	分野				主な具体的な取組み	お問合せ先
		自然環境	資源循環	脱炭素	その他		
1	A 団体	●				・尼崎の森中央緑地の森づくり	
2	B 団体	●	●			・海と陸の資源循環活動	
3	C 団体	●	●		●	・尼崎運河の水質調査や清掃、イベント開催など	
4	D 団体				●	・尼崎運河や臨海地域のガイド	
5	E 団体				●	・メガソーラーやクリーンセンターなどの見学環境バスツアー	
6	F 団体	●				・尼崎運河や海の水質浄化など	
7	G 団体	●	●		●	・尼崎運河でパドルボート（SUP）体験 ・清掃活動	
8	H 団体	●	●	●		・公害の授業 ・3R 活動 ・尼崎の森中央緑地の森づくり	
9	I 団体				●	・尼崎 21 世紀の森の発信	
10	J 団体	●	●			・「尼海の会」の活動に参画	
11	K 団体	●			●	・尼崎の海や魚について学ぶ教室の開催 ・釣り人が釣った尼崎の海や川の魚を子ども食堂へ寄付	

■行政機関などの取組み一覧表

	機関名	分野				主な具体的な取組み	お問合せ先
		自然環境	資源循環	脱炭素	その他		
1	尼崎の森中央緑地 パークセンター	●	●	●		・森の植樹や間伐、生きものの観察 ・昔のくらしの体験など	
2	尼崎市 (経済環境局環境部環境創造課、都市整備局土木部公園計画・21 世紀の森担当)	●	●	●		・市内の小学校 4 年生を対象に運河、ゴミ、温暖化、公害について出前授業を実施	
3	A 博物館	●				・幼児向けに生きものや自然に触れ合うプログラムを実施	
4	B 大学	●	●			・運河の水質調査 ・運河での環境学習やイベントの開催など	

■環境学習に関する取組み場所位置図

	企業名		団体名		行政機関名
1	A社（金融・保険業）	1	A団体	1	尼崎の森中央緑地 パークセンター
2	B社（サービス業）	2	B団体	2	尼崎市
3	C社（工業団地）	3	C団体	3	A博物館
4	D社（製造業）	4	D団体	4	B大学
5	E社（サービス業）	5	E団体		
6	F社（製造業）	6	F団体		
7	G社（建設業）	7	G団体		
8	H社（建設業）	8	H団体		
9	I社（製造業）	9	I団体		
10	J社（サービス業）	10	J団体		
11	K社（不動産業）	11	K団体		
12	L社（複合サービス事業）				
13	M社（製造業）				
14	N社（製造業）				
15	O社（サービス業）				
16	P社（運輸・通信業）				
17	Q社（学術研究、専門・技術サービス業）				
18	R社（製造業）				
19	S社（製造業）				
20	T社（製造業）				
21	U社（不動産業）				



※企業の位置に関しては、森構想エリア内に事業所や工場がある企業は、事業所や工場の場所を記載。森構想エリア外の企業は、活動実施場所を記載。

(2) お問い合わせ先

【総合窓口】

森構想エリアの環境学習にご興味のある方

➡ 兵庫県阪神南県民センター 尼崎21世紀プロジェクト推進室  
TEL: 06-6105-4433

尼崎の森中央緑地での環境学習プログラムについて知りたい方

- ・プログラムではどのような材料や道具を使うのか
- ・尼崎の森中央緑地までの交通手段について知りたい 等

➡ 尼崎の森中央緑地パークセンター  
TEL: 06-6412-1900

北堀チャンネルベースでの取組み（イベントや環境学習）について知りたい方

➡ 尼崎市役所 公園計画・21世紀の森担当  
TEL: 06-6489-6530